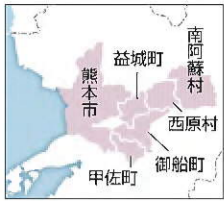


1年 熊本地震

「復興進まず」9割



アンケートの質問は27項目。熊本市、益城町、御船町、甲佐町、南阿蘇村、西原村の熊本県内6市町村を対象に、記者が仮設住宅を訪ねて聞き取った。回答者は男女50人ずつで、20歳代12人、30歳代20人、40歳代18人、50歳代15人、60歳代18人、70歳代13人、80歳代4人だった。

交流の輪を広げる

無職 村本孝司さん 75

自宅は半壊。昨年9月に仮設団地に入居し、今は自治会長を務めている。元々面識がない住民も多いが、積極的にあいさつをして、交流施設「みんなの家」に誘い、テレビで大相撲や紅白歌合戦と一緒に見て、輪を広げている。高齢者や小さな子供など、いろんな人が集まれる場所にした。仮設での暮らしは人間関係が大事。何かを決めるときは、相手の意見をしっかりと聞くように意識している。(御船町)

被災者忘れないで

介護職員 田中麻衣さん 30

夫らと昨年8月に仮設住宅に入った。子供3人は、みんなの家で友達とトランプなどで遊び、お隣さんとも仲良くして安心感が高まっている。自宅は大規模半壊。所有する農地に家を再建したいが、必要な手続きが行政から認められず再建できない。街の表通りは元に戻りつつあるが、裏道に入るとまだ手つかずの状態の場所も多い。今でも震災で困っている人たちがいることを忘れないでほしい。(熊本市南区)

また家族一緒に

主婦 横田いつ子さん 58

夫と長女、長男家族の計7人で住んでいた木造2階建ての自宅が本震で全壊した。昨年9月から仮設住宅に夫婦で暮らす。長男家族は近くだが別の仮設、長女は熊本市内のみなし仮設と、離れ離れになった。元の地域に戻り、また家族一緒に暮らしたい。昨年7月に公費解体を申し込んでいるが、まだ作業が始まっていない。町は解体作業を迅速化し、再建費用の援助も手厚くしてほしい。(益城町)



仮設住宅で近所づきあいがあるか
 全くなさ 6人
 時々ある 13人
 ある 29人
 52人

仮設住宅での近所づきあいの有無を尋ねた質問では、「ある」(52人)、「時々ある」(29人)が計8割を超えた。甲佐町では被災前の近隣者が近くに住めるよう部屋の割り振りが配慮されているほか、避難所が一緒だったことから交流が続いているケースも多かった。「仮設で知り合った独居のおばあちゃんと一緒に夕食を食べる」(益城町の42歳女性)などのつながりもみられた。

「ほとんどない」「全くない」は計19人。理由は、「知り合いがいらないから」(甲佐町の35歳男性)などのほか、「母の介護があるため」(益城町の58歳女性)という切実な理由もみられた。

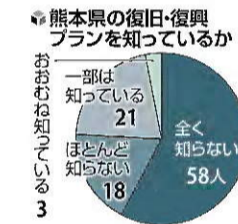
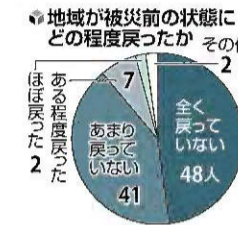
今回の調査では、仮設住宅のコミュニティ活動は一定程度、機能している様子が見える。今後は、地域活動に参加できない人などに対し、より細やかな配慮が求められる。

地域の将来には高い期待

被災者100人アンケート

住宅再建に不安
 被災者が暮らしていた地域の復興状況について、被災前の状態にどの程度戻ったかを尋ねたところ、「全く戻っていない」が48人、「あまり戻っていない」が41人、「戻っていない」と答えた。約9割(計89人)が「戻っていない」と答えた。

倒壊した家屋の解体が終了したとする人は公費、自費合わせて計62人だったが、更地のままの土地は多い。両類と暮らしていた自



復興住宅は、今年度中にも建設が始まる見通しだ。「一部」「おおむね」を合わせ「知っている」と答えたのは約2割(計24人)に、プランの評価を尋ねた質問では、「満足」と答えた人はおらず、約半数が「不満足」(「やや不満足」と否定的だった。不満足理由は、6人が「住民の意見が反映されていない」と回答。防災機能などの強化のため、4車線化が計画されている県道が走る益城町では、「道路より宅地の復旧にお金を回してほしい」(56歳女性)などの意見が目立った。一方、「ほぼ満足。行政の支援は当たり前ではなく、感謝している」(益城町の50歳男性)との声もあった。

県は「復興へのロードマップ(行程表)」で再建への見通しを示すことで、県民の安心感につなげたい」としているだけに、プランの周知も課題となりそうだ。

仮設住民 支え合い

自治会活動が「積極的」と受け止めているのは58人。県が仮設住宅に設けた交流施設「みんなの家」が活用されているようで、「利用したことがある」のは68人だった。お茶会や子供向けの食事会、情報交換の場などとして使われており、「健康のため、ラジオ体操やエアロビクスなどの運動イベントに欠かさず参加している」(益城町の82歳女性)との声も聞かれた。一方、「利用したことがない」は32人で、「耳が遠く、迷惑をかけたくない」(熊本市の83歳女性)という人もいた。心身の健康状態が「悪化した」としたのは、前々回(34人、前回(21人)から16人に減少した。ただ、益城町の仮設住宅では3月、持病があった独居暮らしの男性(当時61歳)が、誰にもみとられずに亡くなったケースがあった。

熊本地震発生から1年 被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます

広告掲載料の一部を読売光と愛の事業団を通じて寄付させていただきます

- 株式会社 鶴屋百貨店
- 株式会社 岩田屋三越
- 株式会社 博多大丸
- 株式会社 西日本シティ銀行
- 九州労働金庫
- 日興アセットマネジメント株式会社
- 第一交通産業株式会社
- 麒麟ビール株式会社
- NTT都市開発株式会社九州支店
- 阪九フェリー株式会社
- 株式会社 健康家族
- 株式会社 財宝
- 株式会社 エモテント
- 株式会社 桃谷順天館
- 株式会社 エンドラン
- 株式会社 広研
- 株式会社 東京アド

(順不同)